令和7年度　学校評価書

学校法人　桃花学園
認定こども園　ももはな

1. 学校の教育目標

教育目標

・心も体も健全な子
・素直でやさしく、思いやりの気持ちを持った子
・どんなことでも自分で考え、意欲的に取り組み、工夫して最後までやりとげる子

2. 指導のねらい

・様々な経験や体験を通して、友だちと一緒に意欲的に行動できる子
・日常の生活の中から、あそびが充実するための環境設定を考える

3. 本年度に定めた重点的に取り組む目標や計画

① ・集団生活の中で人と関わることの楽しさを育てる。
② ・保育の質の向上と保育者のスキルアップ・・・「各年齢にあった異年齢の関わりを考える」
③ ・地域の行事を通して地域の人々と関わる
　・保護者や地域の子育て支援拠点

4. 自己評価項目の達成及び取組状況

具体項目	評価点	理由及び改善策
教育保育計画	A	・少人数での保育をメリットと考え、一人ひとりの姿をじっくり見つめ今その子が何をしたいのか、何に興味を示しているのか、どこにつまずいているのかを見つけ、保育者の関わり方・必要な支援及び環境設定が大切であると感じ、保育の中に生かすよう努力した。 ・日々の生活の中で、子どもの気づき、子ども同士の関わりを大切にし、その中で感じとった「憧れ」「優しさ」「自信」「悔しさ」「感謝」等は、将来の人との関わる心の土台となるので、保育者がその気持ちに共感し育んでいけるようにしたい。
研究計画	A	・各学年で、今何を育てたいか、それがこれからどうつながっていくかを考え、まずは学年での計画を立てそれを持ち寄り話し合い、園全体としての方向性を統一して進めていくことが大切だと思う。 ・全員で集まる時間の確保が難しいので、個々にレポートにし回覧したことは、それぞれの先生の保育の捉え方や子どもの見方等を学ぶ機会としてはよかった。今後はそれらをもとに、保育者同士がどう関わり、子どもに向けていくかが課題である ・リモートで受けた研修（マネージメント）がすごく学ぶことがあり、自分自身に生かせること多かった。
地域連携計画	B	・子どもの人数も減少し、人と人との触れ合いがどうしても薄れがちになっていく中で、これから地域とのつながり等にも意識的に目を向けていきたい。行事にとらわれず、園外保育等で積極的に足を運んでいく機会をつくっ ・保護者の意見も聞きながら、園としてできることを発信していく。 ・小さな成長を一緒に喜んだり、共に育ている、見守ってくれるという存在としての園の在り方が、最も大切であり日々大事にしていくことを、今後も忘れずにいたい。

◎「4．5．」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

5. 学校関係者評価委員の評価結果

具体項目	評価点	学校関係者評価委員会の意見
教育保育計画	A	・少人数ならではの、一人ひとりに密に関わることが出来る丁寧な保育を大切にしながらも、子ども同士が一人ひとりの個性を出し合いながら、積極的に関わり集団の中で逞しく育っていく事も忘れないでほしい。 ・一緒に遊ぶ楽しさ、共通の目的に向かって力を合わせること、競い合って味わう悔しさ等、集団の中にいるからこそ気づける体験ををを保育の中で、沢山経験させて欲しい。
研究計画	A	・園だから出来る活動、今だから出来る活動など・・・一人ひとりが今やりたいことにとことん取り組める環境や時間の確保など、園全体で話し合い意見を出し合い、子ども達が充実した園生活を送れるように引き続き進めて欲しい。 ・いろいろな新しい情報の収集とともに、これからの時代を生き抜いていく子ども達ために、今何を必要としているかなどを考えていくことも必要となってくると思う。
地域連携計画	B	・地域に出向くことは積極的にしてほしい。核家族が増えてきている反面、高齢者も増えてきているのでディサービスに遊びに行ったりお年寄りを園内に招待するなどの機会をもったらよいのでは・・・ ・保護者の声を積極的に聞きながら、職員間でも話し合い、みんなが成長しあえる園づくりを検討してみるといいと思う。